

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	中野 晃彦

法人・事業所の特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の思い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
-----------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	3人	1人	1人	1人	0人	2人	0	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットを有効活用し、利用開始前から情報の共有、対応についての検討を行い、初回利用から安心して利用していただけるように取り組む。また、昨年度と同様に初回利用前から顔なじみの関係を作れるように努める。 ●日頃の通い・訪問・送迎時や、ご家族へのアンケートから、ご利用者・ご家族の意見や要望を聞き取り、反映していくことでサービスの質の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットの写真撮影を有効活用し、また細かな情報も記載し共有する事で、職員全員が共通の支援を行うことができた。 ●日常的な他愛のない会話を糸口にその方との信頼関係を構築し、パーソナルな情報を含む情報収集・共有が行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットを有効活用し、利用者との関係づくりを行っていると感じました。 ●タブレットは事業所のスタッフ全員が使われているのでしょうか？ ●「以前の暮らし10個以上」とはどういうことですか？ ●タブレットは勤務している人、全員が使用できる台数を揃えることはできないですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●タブレットをさらに活用し、日常的な会話や写真の記録など詳細を残し、その方に合った対応を充実させ、ニーズに即したケアプランの作成・実行に繋げていく。 ●日頃の通い・訪問・送迎時や、ご家族へのアンケートから、ご利用者・ご家族の意見や要望を聞き取り、タブレットに残すことで職員全員で情報を共有し、そこから反映していくことでサービスの質の向上に繋げる。

<p>B. 事業所のしつらえ・環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●中庭のスペースを地域の方、入所者の休憩所として活用していただけるよう季節に応じた植物を植える(設置する)。また、玄関スペースも同様にプランターや看板を設置するなどの工夫を行い、入りやすい空間作りに努める。 ●センター内でも四季を感じてもらえるように玄関、交流スペース、フロアの空間を活用し創作品の展示を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度もプランターを使用して季節ごとの花を植えるなどして玄関や中庭を彩った。訪れる利用者様からも玄関の花が好評であり、「これ何の花？」等興味を持たれるなど会話のきっかけや豊かな表情を引き出す事につながっている。 ●センター内においては季節ごとに折り紙やお花紙を使用した装飾品を随時掲載している。また利用者様にも協力して頂き、貼り絵や書道といったそれぞれの利用者様独自の色も展示できるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティアの方々ももう少し気軽に入れるような雰囲気ができると、事業所ももっと明るく、活気が出て来るような気がします。家族ももう少し行事に参加できるようになると、みんなが楽しめるのではないかと思います。 ●鍵がかかかっていないため、誰でも入りやすくなっていると思いますが、防犯上気を付けていることなどがあればお聞きしたいです。 ●中庭に植物をという考えも良く分かるが、いざという時に足元の安全が図れるかなども熟慮して頂きたい。 ●センター内の展示はいつも綺麗にされていると感じます。中庭については見る機会がなかったため、「わからない」にチェックさせて頂きました。ぜひ今度見せて下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●正面入り口や中庭を始めとした地域の方に見える場所を、プランターや看板を設置するなど見映えを意識し、誰もが気軽に入りやすい空間作りに努める。 ●センター内でも四季を感じてもらえるように玄関、交流スペース、フロアの空間を活用し創作品の展示を継続する。また利用者様の作品も飾り、個々人の喜びに繋がられるよう努める。
-----------------------	--	---	--	--

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中学校への地域啓発活動の実施、コミュニティセンターにて福祉講座の開催や広報誌を置かせていただくなど、一人でも多くの方に知っていただくきっかけを作る。 ●広報誌を作成する際に、センターの情報を分かりやすく記載した文章や興味を持っていただけるような内容を載せてPRに努める(年6回配布)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●昨年度同様、コミセンでの「ふれあいサロン」の開催をさせて頂いた。参加された方からも好評を頂き、センター利用者でない方も交流を深めることができた。 ●川崎新聞は例年同様年6回の発行を維持しお届けすることができた。内容も同じ内容になることなく、少しでも興味が引くようなプログラムを作成者がそれぞれ考え、脳トレをはじめとする様々な情報をお届けし、センターを知ってもらうよう工夫を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設入り口に案内板とかが無いので、知らない人は知らない、という状況だと思う。 ●地域の行事参加については、クリーン作戦(掃除)以外は参加をされていないが、他の行事はどのようなものがあるのか事業所は把握していますか？ ●川崎新聞は日頃の活動を家族が知る上でとても役に立っていると思います。職員さんとも記事の内容で会話が進み、家族も心が慰められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小・中学校への地域啓発活動の実施、コミュニティセンターにて福祉講座の開催や広報誌を置かせていただくなど、一人でも多くの方に知っていただくきっかけを作る。 ●広報誌を作成する際に、センターの情報を分かりやすく記載した文章や興味を持っていただけるような内容を載せてPRに努める(年6回配布)。
-----------------------	--	--	--	--

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターでの各種行事(ふれあいサロン等)、センターでの季節の行事には、ご利用者のご希望に応じて新型コロナウイルスの感染対策に十分配慮し、可能な範囲で参加していただく。 ●新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、ご利用者のご希望に応じて、安全を確保した上で、外気浴や家庭菜園・外出ドライブ等の機会を計画・実行しできる事への工夫を行うことを今年度も継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●コミセンでの「ふれあいサロン」の開催には協力できた一方、業務の関係上多くの職員が地域活動に出ることが難しかった。 ●プランターに花を植えるなどの景観を彩る取り組みを利用者様と一緒に楽しみながら行えた。また時間のない中でも職員の時間を見つけ、企画には無かったとしても外気浴等の外出ドライブを実施することができた。 	<p>ご意見特になし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターでの各種行事(ふれあいサロン等)、センターでの季節の行事には、ご利用者のご希望に応じて新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染対策に十分配慮し、可能な範囲で参加していただく。 ●新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染防止対策を徹底し、ご利用者のご希望に応じて、安全を確保した上で、外気浴や家庭菜園・外出ドライブ等の機会を計画・実行しできる事への工夫を行うことを今年度も継続する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も専門職の方に運営推進委員として参加していただき、地域の中での課題等、多方面からの情報収集・情報交換を行い、センターとしての役割を果たす。 ●運営推進会議で出た提案や意見を、事業所ミーティング時に検討し事業所運営に活かし、実施した際には、運営推進会議にて報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議においては自由に意見交換をできる時間を設け、委員の方からたくさんのご意見を頂けた。センターからの発信も同時に行い、どのように運営しているのかを共有することができた。 ●運営推進会議の場だけに限らず、引き続き地域の方々と日頃の会話などを元に情報収集・共有を重ね、発展した事業運営に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議では毎回意見や質問を出しやすくするような雰囲気づくりをされており、取り組みについてもわかりやすく説明されてされていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も専門職の方に運営推進委員として参加していただき、地域の中での課題等、多方面からの情報収集・情報交換を行い、センターとしての役割を果たす。 ●運営推進会議で出た提案や意見を、事業所ミーティング時に検討し事業所運営に活かし、実施した際には、運営推進会議にて報告する。

F. 事業所の
防災・災害対策

●センターの防災訓練について、新型コロナウイルスの状況により、運営推進委員の方に参加して頂くことが難しいことも想定されるため、防災訓練の様子を記録に残し、結果を運営推進会議にて報告し、評価頂く。

●災害時には、一時的な避難所として地域の必要な方に活用していただけることを、広報誌に載せ地域の方へも情報発信する。

●11月の防災訓練(避難訓練)の際は実際に委員の皆様にも見学して頂き、ご意見を頂いた。また災害に対しての事業所としての対応や園としての動きも共有できた。

●一時的な避難所としての役割を担うことを広報誌を通じて発信は行ったが、頻度が少なく実際に地域住民の方に届けられたかが不明瞭であり、次年度への課題。

●(運営推進会議の前に施設の避難訓練の様子を見学してみて)
→ 本日の訓練に参加させて頂いて少し安心しました。思っていたより大変なことももっとわかりました。

●災害が夜間の場合、職員の人数も限られていると思うので心配な点が多い。

●原子力発電所の再稼働の議論が注目される中、事故が起きた時の具体的な避難方法などについて整理できていないと感じます。

●在宅時の避難方法について、もう少し知恵を貸していただけるとありがたいと思います。

●訓練ではあったが相当に素早く丁寧にスタッフは動いておられた。
実際の時に入所者の皆さんが対応できるように度々の取り組みができると思います。

●センターの防災訓練について、記録を残すだけでなく、可能であれば運営推進委員の方にも実際に参加して頂くことも視野に入れる。実際の場面を見聞きしての質問を受け、センターの防災対策を充実させるよう努める。

●災害時には、一時的な避難所として地域の必要な方に活用していただけることを広報誌に載せ、地域の方へも情報発信する。